

景況レポート

No.143

2023年4月～6月期



北見しんきん

〒090-8711 北見市大通東1丁目2番地1
電話(代) 0157-24-7531
URL:<http://www.shinkin.co.jp/kitami/>
本レポートはホームページでもご覧いただけます。

景気動向

道内景気

日本銀行札幌支店が7月3日に発表した6月の企業短期経済観測調査結果(短観)によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数(DI:「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値)は全産業で『8』となり、前回の調査『7』から改善しました。内訳では、製造業(前回▲6→今回▲9)は悪化、非製造業(前回11→今回13)は改善しました。2023年9月までの全産業での先行き予測は6と、悪化の見通しです。

また7月3日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、緩やかに持ち直している。個人消費は、緩やかに増加している。観光は、持ち直している。設備投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、持ち直している。住宅投資は、減少している。生産は、横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。輸出は、高水準で推移している。雇用・所得情勢をみると、緩やかに改善している。

【公共工事請負金額】 前年を上回った。

【個人消費】 百貨店は、緩やかに持ち直している。スーパーは、緩やかに増加している。コンビニエンスストアは、増加している。ドラッグストアは、増加している。家電販売は、弱めの動きとなっている。乗用車販売は、持ち直している。サービス消費は、持ち直している。

【観光】 持ち直している。

【新設住宅着工戸数】 持家、分譲は、減少している。貸家は、低水準で推移している。

【生産(鉱工業生産)】 横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。主要業種別にみると、食料品では、横ばい圏内の動きとなっている。電気機械では、弱めの動きとなっている。輸送機械では、持ち直しの動きが一服している。紙・パルプでは、低水準で推移している。

【雇用・所得情勢】 緩やかに改善している。

【消費者物価(除く生鮮食品)】 前年比が前月を下回った。

【企業倒産】 低水準で推移している。

地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDI値は、売上高が▲10と2ポイントの悪化、収益も▲21と3ポイントの悪化でした。直前3ヵ月と比較した今後3ヵ月の見通しでは、売上DI値は15、収益DI値は2と改善の見通しとなっています。

特別調査 【アフターコロナと中小企業】

コロナ禍が沈静化しつつあるなかで、各種原材料やエネルギー価格の高騰や、賃上げに対する社会からの要望など、対応が求められる事象が新たに発生しています。そこで、今回はアフターコロナにおける中小企業の状況について調査しました。

【賃上げおよび一時金支給の有無】

事業者の 50.8%が賃上げを行っており、全国水準(44.4%)を上回りました。

一方、一時金支給においては、23.2%の実施状況となり、これも全国水準(21.5%)を上回っています。

【原材料・仕入価格や電力・エネルギー価格の上昇分の、販売価格への転嫁状況】

原材料・仕入価格については、転嫁できていない事業者が 27.5%と、全国水準と同程度になりました。

電力・エネルギー価格については、転嫁できていない事業者が 52.8%と過半数を超えており、全国水準も上回っています。

【コロナ前と比較した現在の売上げ】

増加傾向である「大幅増加～やや増加(合計 26.2%)」が全国水準(合計 26.9%)と同程度となり、対して減少傾向の「やや減少～大幅減少(合計 35.6%)」が全国水準(合計 32.7%)を上回りました。「ほぼ変わらない(38.3%)」は全国水準を下回っています。

【3～5年後に向けた事業展開】

「現状維持」が 49.2%と最も多く、全国水準も上回っており、強い現状維持志向が窺われます。

また、全国と比較すると「新製品・商品・サービス」への志向が強い一方、「新販路・市場開拓」への志向は弱い状況となっています。

【人材確保のための職場環境改善実施策】

「賃上げ等、待遇面の改善(55.3%)」が最も多く、以下「ワークライフバランスの充実(21.0%)」「人事管理の適正化(16.6%)」と続きました。全国と同様の傾向となっています。

【政府が企業に対して賃上げを要請していますが、貴社では賃上げ、もしくは一時金の支給を実施しましたか。賃上げをした方は、その原資について1～4から、一時金の支給をした方は、その原資について6～9の中から選んでお答えください。賃上げや一時金の支給をしていない方は、5、0とお答えください。】

賃上げの実施		《全国》	
1. 販売価格の引上げ	20.4%	18.5%	
2. 経費の節減	15.5%	14.3%	
3. 内部留保の取り崩し	9.9%	9.0%	
4. その他	5.0%	2.5%	
5. 賃上げはしていない	49.2%	55.6%	
一時金支給の実施		《全国》	
6. 販売価格の引上げ	6.1%	6.3%	
7. 経費の節減	7.2%	7.7%	
8. 内部留保の取り崩し	7.2%	6.0%	
9. その他	2.8%	1.4%	
0. 一時金は支給していない	76.8%	78.5%	

【貴社では、昨今の原材料・仕入価格の上昇分や電力・エネルギー価格の上昇分相当を、販売価格に転嫁(上乗せ、値上げ)できていますか。「原材料・仕入価格」については1～4から、「電力・エネルギー価格」については5～8からそれぞれお答えください。】

原材料・仕入価格		《全国》	
1. 全て転嫁できている	7.3%	4.3%	
2. ほぼ転嫁できている	25.8%	24.3%	
3. やや転嫁できている	39.3%	43.7%	
4. 転嫁できていない	27.5%	27.7%	
電力・エネルギー価格		《全国》	
5. 全て転嫁できている	3.4%	2.4%	
6. ほぼ転嫁できている	9.0%	13.2%	
7. やや転嫁できている	34.8%	36.3%	
8. 転嫁できていない	52.8%	48.2%	

【新型コロナウイルス感染拡大から3年が経過しましたが、貴社の現在の売上について、感染拡大前(およそ3年前)と比べ、どの程度となっていますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

		《全国》	
1. 大幅増加(201%以上)	1.7%	0.5%	
2. 増加(151%～200%)	3.9%	3.7%	
3. やや増加(111%～150%)	20.6%	22.7%	
4. ほぼ変わらない(90%～110%)	38.3%	40.4%	
5. やや減少(71%～89%)	25.6%	24.2%	
6. 減少(51%～70%)	8.3%	7.0%	
7. 大幅減少(50%以下)	1.7%	1.5%	

【貴社では、3～5年後に向けて、現在の事業をどのように展開していきたいとお考えですか。以下の1～6の中から、最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。】

		《全国》	
1. 現在の事業を、現状のまま			
	継続したい	49.2%	47.2%
2. 新しい販路・市場を開拓したい		19.9%	25.9%
3. 新しい製品・商品・サービスを			
	開発したい	14.4%	10.9%
4. 全く異なる事業を手がけたい		2.8%	1.7%
5. 事業は縮小・撤退する		3.9%	2.6%
6. 特に考えていない(わからない)		9.9%	11.7%

【貴社では、人材確保のための職場環境改善へ向け実施していることはありますか。1～9の中から最大3つまで選んでお答えください。なお、特にないという方は0を選択下さい。】

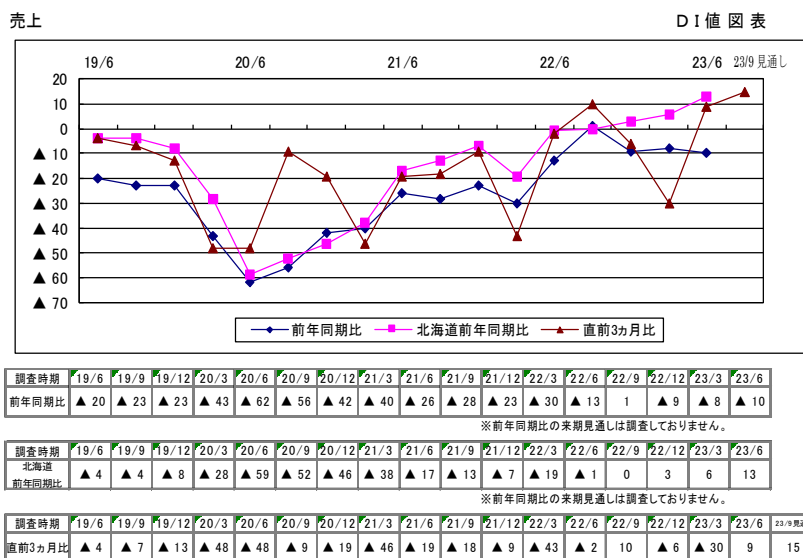
		《全国》	
1. 賃上げ等、待遇面の改善		55.3%	41.7%
2. ワークライフバランスの充実			
	(長時間労働是正等)	21.0%	22.2%
3. テレワーク等、IT化の推進		3.9%	6.7%
4. 人事管理(評価、処遇)の			
	適正化	16.6%	17.0%
5. 非正規雇用の処遇改善		10.5%	4.5%
6. 高齢者の就業促進		12.2%	14.3%
7. 女性が活躍しやすい環境整備		11.1%	12.8%
8. 外国人人材の活用		3.3%	6.5%
9. 子育て、介護との両立		3.9%	5.4%
0. 特にない		32.0%	34.2%

売上

調査対象先企業 181 社の売上を総体的にみますと、前年同期（22 年 4～6 月）と比較して「増加」した先 28%、「変わらず」の先 34%、「減少」した先 38%で、その D I 値（増加割合－減少割合）は▲10 となり、前回調査より 2 ポイント悪化しました。

業種別で見ますと、製造業・建設業は改善、卸売業・サービス業は悪化、小売業は横ばいとなっています。

3 カ月毎の比較では改善、今後 3 カ月も改善の見込みです。



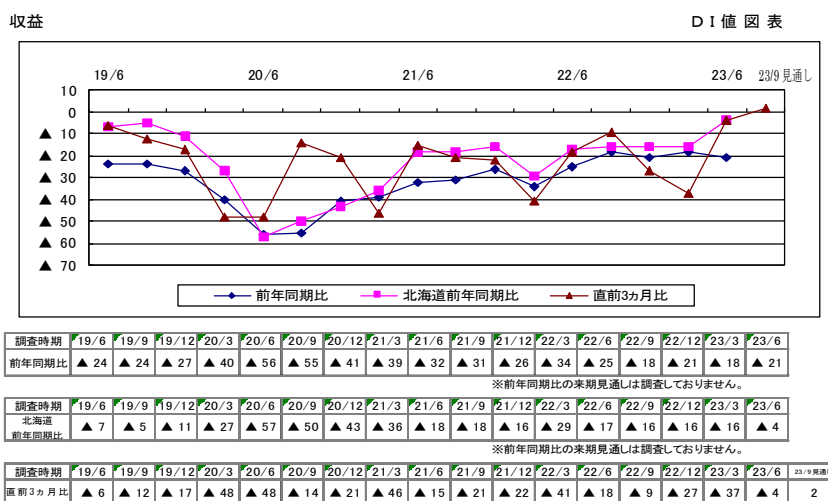
グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

収益

調査対象先企業 181 社の収益を総体的にみますと、前年同期（22 年 4～6 月）と比較して「増加」した先 20%、「変わらず」の先 39%、「減少」した先 41%で、その D I 値（増加割合－減少割合）は▲21 となり、前回調査より 3 ポイント悪化しました。

業種別で見ますと、製造業・建設業は改善、卸売業・小売業・サービス業は悪化となっています。

3 カ月毎の比較では改善、今後 3 カ月も改善の見込みです。



グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

概況

調査先製造業全体の業況を前年同期（22年4～6月）と比較してみますと、売上で「増加」した先38%、「変わらず」の先30%、「減少」した先32%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は6となり、前回調査より22ポイント改善しました。

収益は「増加」した先32%、「変わらず」の先39%、「減少」した先29%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は3となり、前回調査より26ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(23/3)	8	10	13	▲16
	今回(23/6)	12	9	10	6
収益	前回(23/3)	8	8	15	▲23
	今回(23/6)	10	12	9	3

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに改善しました。

内訳をみますと、木材の売上は悪化しましたが、それ以外は全般的に改善しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上、収益ともに改善しました。

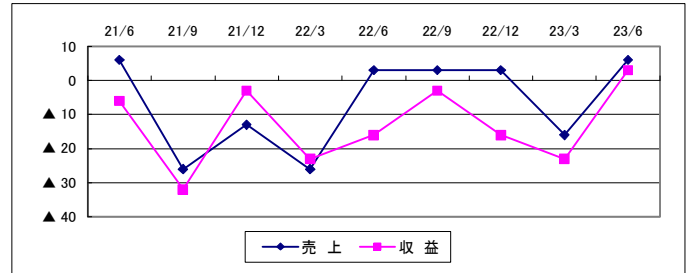
【今後3ヵ月の見通し】

売上は悪化、収益は改善の見通しです。

調査員のコメントには、「原材料高騰の影響はあるが、徐々に販売価格への転嫁はできている」、「原材料・仕入れ価格共高騰しており、今後賃上げを見据え価格交渉していく予定である」、「住宅着工数が減っているため、シェア拡大により売上確保を図る」、「売上は上昇傾向に推移しているものの、原材料高騰により利幅が減少」、「卵不足により今後の製造量に影響が出ている」といったものがありました。

前年同期比

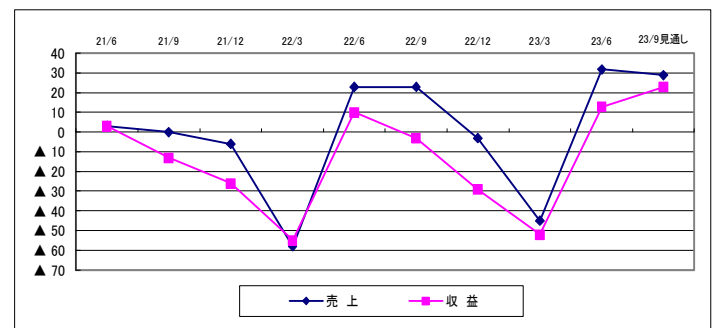
DI値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6
売上	6	▲26	▲13	▲26	3	3	3	▲16	6
収益	▲6	▲32	▲3	▲23	▲16	▲3	▲16	▲23	3

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9見通し
売上	3	0	▲6	▲58	23	23	▲3	▲45	32	29
収益	3	▲13	▲26	▲55	10	▲3	▲29	▲52	13	23

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	木材製品	建設関連	その他
売上額	1月～3月と比較	32	50	30	38	0
	7月～9月の見通し	29	50	60	12	▲40
収益	1月～3月と比較	13	13	30	13	▲20
	7月～9月の見通し	23	38	50	0	▲20
販売価格	1月～3月と比較	23	13	▲20	63	60
	7月～9月の見通し	20	25	0	38	20
原材料価格	1月～3月と比較	58	88	10	75	80
	7月～9月の見通し	38	75	▲10	63	40
原材料在庫	1月～3月と比較	▲10	▲13	▲10	▲13	0
	7月～9月の見通し	▲13	▲13	▲20	▲13	0
資金繰	1月～3月と比較	▲13	▲13	▲20	▲13	0
	7月～9月の見通し	▲13	▲13	▲20	▲13	0

概況

調査先卸売業全体の業況を前年同期（22年4～6月）と比較してみますと、売上で「増加」した先27%、「変わらず」の先32%、「減少」した先41%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲14となり、前回調査より9ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先18%、「変わらず」の先46%、「減少」した先36%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲18となり、前回調査より4ポイント悪化しました。

販売価格は「増加」した先59%、「変わらず」の先37%、「減少」した先4%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は55となり、前回調査と同じでした。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(23/3)	6	9	7	▲5
	今回(23/6)	6	7	9	▲14
収益	前回(23/3)	5	9	8	▲14
	今回(23/6)	4	10	8	▲18
販売価格	前回(23/3)	14	6	2	55
	今回(23/6)	13	8	1	55

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化し、販売価格は横ばいとなっています。内訳をみますと建設関連で悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに改善、販売価格は上昇しました。

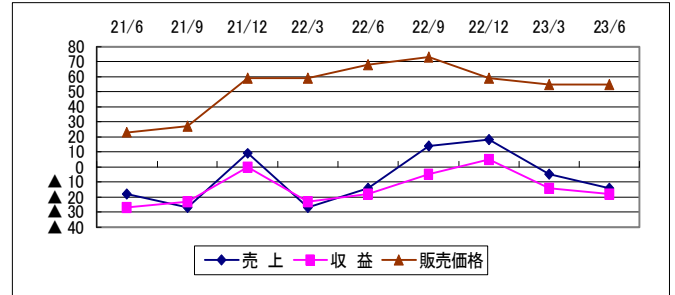
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善し、販売価格は下降する見通しです。

調査員のコメントには、「同業者間の競争激化により売上は減少傾向」、「一部販売先の動きが低調なため前期と比べると厳しい業容にて推移」、「住宅案件が少なく厳しい経営環境での営業を余儀なくされている」といったものがありました。

前年同期比

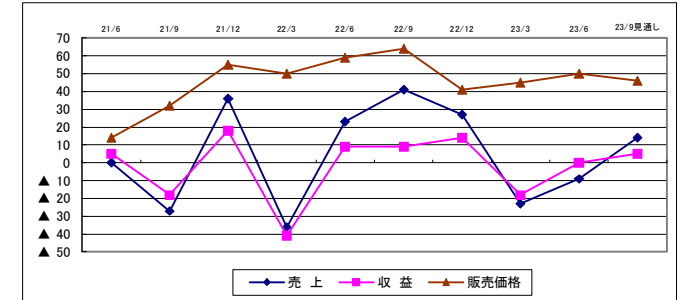
D I 値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6
売上	▲18	▲27	9	▲27	▲14	14	18	▲5	▲14
収益	▲27	▲23	0	▲23	▲18	▲5	5	▲14	▲18
販売価格	23	27	59	59	68	73	59	55	55

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9見通し
売上	0	▲27	36	▲36	23	41	27	▲23	▲9	14
収益	5	▲18	18	▲41	9	9	14	▲18	0	5
販売価格	14	32	55	50	59	64	41	45	50	46

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I 値による) (%)

項目		全体	食料品	建設関連	その他
売上額	1月～3月と比較	▲9	▲17	11	▲29
	7月～9月の見通し	14	33	22	▲14
収益	1月～3月と比較	0	0	11	▲14
	7月～9月の見通し	5	33	0	▲14
販売価格	1月～3月と比較	50	17	56	71
	7月～9月の見通し	46	17	56	57
仕入価格	1月～3月と比較	59	33	56	86
	7月～9月の見通し	50	33	56	57
在庫	1月～3月と比較	14	0	11	29
	7月～9月の見通し	9	0	11	14
資金繰	1月～3月と比較	▲5	▲17	▲11	14
	7月～9月の見通し	0	▲17	0	14

概況

調査先小売業全体の業況を前年同期（22年4～6月）と比較してみると、売上で「増加」した先39%、「変らず」の先27%、「減少」した先34%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は5となり、前回調査と同じでした。

収益は「増加」した先24%、「変らず」の先35%、「減少」した先41%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲17となり、前回調査より12ポイント悪化しました。

販売価格は「増加」した先56%、「変らず」の先39%、「減少」した先5%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は51となり、前回調査より12ポイント上昇しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(23/3)	16	11	14	5
	今回(23/6)	16	11	14	5
収益	前回(23/3)	11	17	13	▲5
	今回(23/6)	10	14	17	▲17
販売価格	前回(23/3)	20	17	4	39
	今回(23/6)	23	16	2	51

動向

【前年同期との比較】

売上は横ばい、収益は悪化、販売価格は上昇しました。内訳をみますと、食料品・その他の収益が悪化、販売価格は全般的に上昇しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに改善し、販売価格は下降しました。

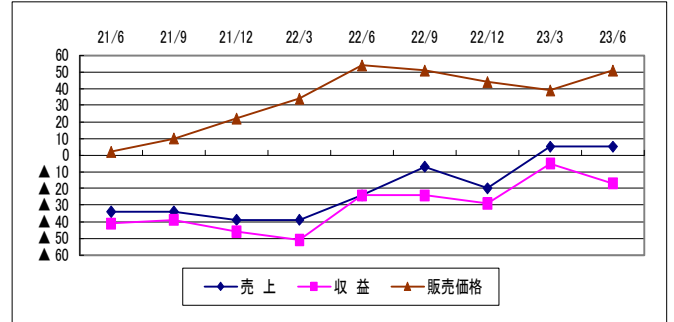
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに下降し、販売価格は横ばいの見通しです。

調査員のコメントには、「原材料高騰により厳しい状況ではあるが、経費削減等の企業努力を行っている」、「在庫過多のためセールを実施し一定の在庫を放出する計画」、「店舗を移転し、効率化を主に経営改革中。人材の確保が課題」などがありました。

前年同期比

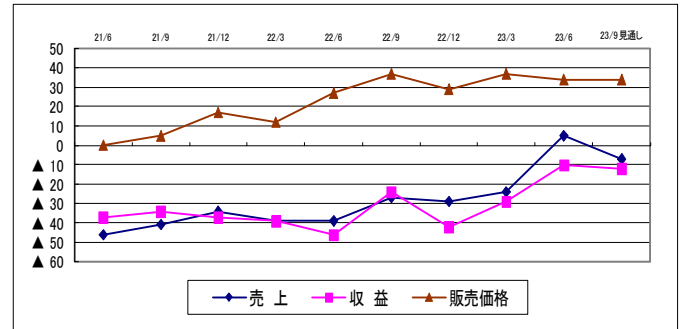
D I 値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6
売上	▲34	▲34	▲39	▲39	▲24	▲7	▲20	5	5
収益	▲41	▲39	▲46	▲51	▲24	▲24	▲29	▲5	▲17
販売価格	2	10	22	34	54	51	44	39	51

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9見通し
売上	▲46	▲41	▲34	▲39	▲39	▲27	▲29	▲24	5	▲7
収益	▲37	▲34	▲37	▲39	▲46	▲24	▲42	▲29	▲10	▲12
販売価格	0	5	17	12	27	37	29	37	34	34

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	衣料品	食料品	その他
売上額	1月～3月と比較	5	▲50	50	▲16
	7月～9月の見通し	▲7	▲50	31	▲26
収益	1月～3月と比較	▲10	▲50	13	▲16
	7月～9月の見通し	▲12	▲33	0	▲16
販売価格	1月～3月と比較	34	33	69	5
	7月～9月の見通し	34	50	56	11
仕入価格	1月～3月と比較	54	50	94	21
	7月～9月の見通し	56	67	88	26
在庫	1月～3月と比較	▲15	▲33	▲6	▲16
	7月～9月の見通し	▲12	▲50	6	▲16
資金繰	1月～3月と比較	▲20	▲33	▲13	▲21
	7月～9月の見通し	▲17	▲17	▲19	▲16

概況

調査先建設業全体の業況を前年同期（22年4～6月）と比較してみますと、売上で「増加」した先20%、「変わらず」の先46%、「減少」した先34%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲14となり、前回調査より9ポイント改善しました。

収益は「増加」した先17%、「変わらず」の先43%、「減少」した先40%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲23となり、前回調査より14ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(23/3)	9	9	17	▲23
	今回(23/6)	7	16	12	▲14
収益	前回(23/3)	6	10	19	▲37
	今回(23/6)	6	15	14	▲23

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに改善しました。

内訳のD I 値の推移は以下のようになっています。

- ・ 土木売上：前回▲33→今回▲8
- ・ 同 収益：前回▲58→今回 8
- ・ 建築売上：前回▲29→今回▲29
- ・ 同 収益：前回▲47→今回▲41

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに改善しました。

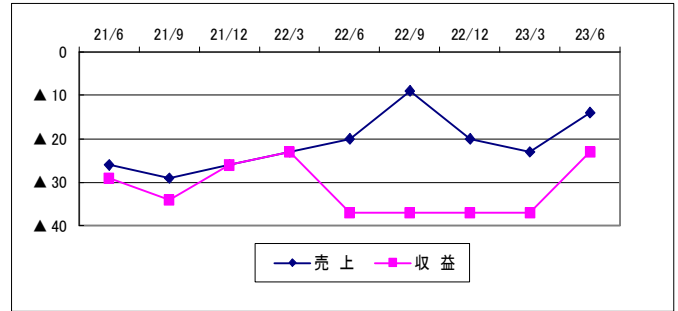
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善の見通しです。

調査員のコメントには、「資材高騰により影響は受けているものの、受注状況良好に推移」、「一般住宅の受注は旺盛であり、工事が追い付いていない」、「木材単価高止まりにより増収基調、業界全体の人材不足、高齢化が深刻」といったものがありました。

前年同期比

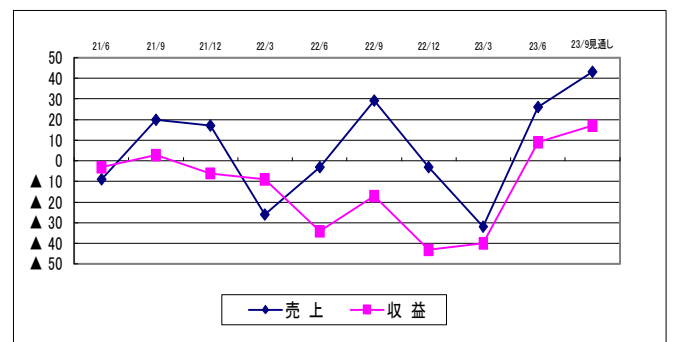
DI値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6
売上	▲26	▲29	▲26	▲23	▲20	▲9	▲20	▲23	▲14
収益	▲29	▲34	▲26	▲23	▲37	▲37	▲37	▲37	▲23

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9見通し
売上	▲9	20	17	▲26	▲3	29	▲3	▲32	26	43
収益	▲3	3	▲6	▲9	▲34	▲17	▲43	▲40	9	17

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	土木	建築	その他
売上額	1月～3月と比較	26	33	30	0
	7月～9月の見通し	43	67	29	33
施工高	1月～3月と比較	6	0	18	▲17
	7月～9月の見通し	32	58	12	33
収益	1月～3月と比較	9	17	6	0
	7月～9月の見通し	17	33	6	17
請負価格	1月～3月と比較	40	58	41	0
	7月～9月の見通し	26	33	30	0
材料価格	1月～3月と比較	74	92	71	50
	7月～9月の見通し	54	75	47	33
在庫	1月～3月と比較	3	0	6	0
	7月～9月の見通し	▲3	▲8	6	▲17
資金繰	1月～3月と比較	▲9	0	▲12	▲17
	7月～9月の見通し	▲14	▲8	▲18	▲17

概況

調査先サービス業全体の業況を前年同期(22年4~6月)と比較してみますと、売上で「増加」した先17%、「変わらず」の先39%、「減少」した先44%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は▲27となり、前回調査より21ポイント悪化しました。

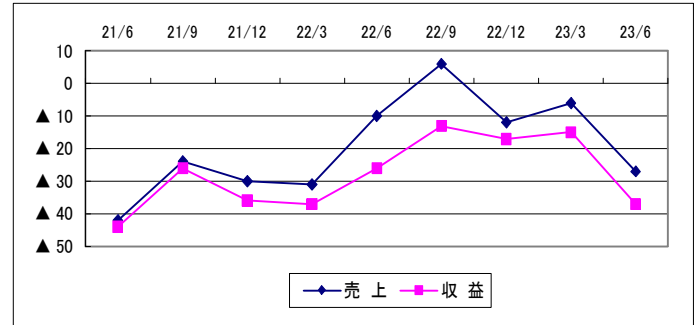
収益は「増加」した先13%、「変わらず」の先37%、「減少」した先50%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は▲37となり、前回調査より22ポイント悪化しました。

調査回答数(前年同期比)

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(23/3)	11	27	14	▲6
	今回(23/6)	9	20	23	▲27
収益	前回(23/3)	9	26	17	▲15
	今回(23/6)	7	19	26	▲37

前年同期比

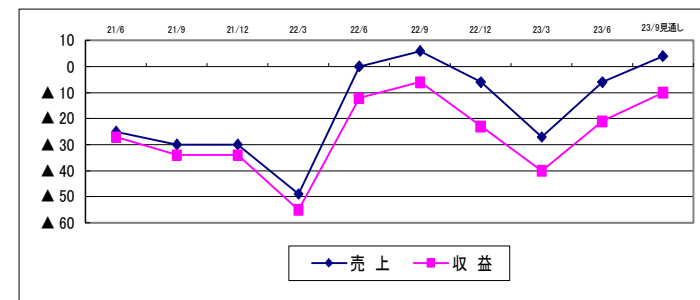
DI値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6
売上	▲42	▲24	▲30	▲31	▲10	6	▲12	▲6	▲27
収益	▲44	▲26	▲36	▲37	▲26	▲13	▲17	▲15	▲37

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9見通し
売上	▲25	▲30	▲30	▲49	0	6	▲6	▲27	▲6	4
収益	▲27	▲34	▲34	▲55	▲12	▲6	▲23	▲40	▲21	▲10

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

内訳をみますと、全般的に横ばいもしくは悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに改善しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに改善する見通しです。

調査員のコメントには、「原価率の低下をはじめ、様々な見直しが必要」、「部品価格高騰しており、価格転嫁も厳しい」、「原材料、光熱費高騰を代金に転嫁できず、コロナ禍による集客の落ち込みも未だあり若干減収減益基調」、「新型コロナおよびウクライナ紛争の影響による仕入価格高騰に苦戦中、今後徐々に価格への転嫁を始める方針」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	理容美容	車両関係	その他
売上額	1月~3月と比較	▲6	▲38	▲20	10
	7月~9月の見通し	4	▲13	0	10
収益	1月~3月と比較	▲21	▲63	▲20	▲10
	7月~9月の見通し	▲10	▲38	▲13	0
料金価格	1月~3月と比較	21	13	20	24
	7月~9月の見通し	17	25	13	17
材料価格	1月~3月と比較	65	50	67	69
	7月~9月の見通し	58	50	67	55
資金繰	1月~3月と比較	▲12	▲25	▲20	▲4
	7月~9月の見通し	▲12	▲13	▲20	▲7

経営上の問題点 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	原材料高 64.5%	売上の停滞・減少 35.5%	利幅の縮小 29.0%
卸売業	売上の停滞・減少 40.9%	利幅の縮小 36.4%	仕入先からの値上げ要請 31.8%
小売業	売上の停滞・減少 48.8%	仕入先からの値上げ要請 36.6%	商圏人口の減少 26.8%
建設業	材料価格の上昇 77.1%	人手不足 74.3%	売上の停滞・減少 51.4%
サービス業	材料価格の上昇 53.8%	売上の停滞・減少 38.5%	人手不足 28.8%

経営施策 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	経費を節減する 58.1%	販路を広げる 51.6%	人材を確保する 35.5%
卸売業	情報力を強化する 68.2%	販路を広げる 59.1%	経費を節減する 59.1%
小売業	経費を節減する 46.3%	品揃えを改善する 36.6%	売れ筋商品を取扱う 36.6%
建設業	人材を確保する 60.0%	経費を節減する 51.4%	販路を広げる 34.3%
サービス業	経費を節減する 51.9%	販路を広げる 32.7%	人材を確保する 30.8%

【調査要領】

1. 調査地域 北見地方1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
2. 調査時点 2023年 6月
2023年 4月～ 6月期の実績および見込み
2023年 7月～ 9月期の見通し
3. 調査対象企業 当金庫お取引先181社（任意抽出）
回答企業数 181社
回答率 100%
4. 調査方法 調査表による訪問聞き取り調査
調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
5. 業種別回答企業数

製造業	卸売業	小売業	建設業	サービス業	合計
31	22	41	35	52	181

6. 分析方法 各質問項目を100分比に換算し、パーセント（%）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（DI値）」で分析を行いました。

企業の経理事務を便利にサポート
インターネットバンキング
WEB-FB

- 総合振込 ■給与・賞与振込 ■都度振込 ■口座振替 ■入出金明細照会 ■残高照会

低コスト！

インターネットが使える環境さえあれば、すぐにご利用が可能です。
 専用ソフト、専用端末などに余計な経費をかけません。

効率的！

総合振込、給与・賞与振込、都度振込、口座振替業務がインターネット経由でスピーディにご利用いただけます。
 振込や振替のデータは外部ファイルから取り込むこともできます。


便利！






登録先の口座以外でも当日振込が可能です。急な振込がオフィスのパソコンから随時できるので便利。
 また、振込完了や為替エラーなど、重要な連絡を電子メールでタイムリーにお知らせします。

安心！

一般者用ID、承認者用ID、管理者用IDの3つのIDで権限設定が可能です。
 登録したデータの承認を貴社の管理者がダイレクトにできるため、厳密なチェックが可能です。
 電子証明書とワンタイムパスワードにより、安全にご利用いただけます。

オホーツク圏経済情勢報告（令和5年4月判断）概況

	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	物価上昇等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある 【判断の上方修正は、令和4年7月判断以来、3期ぶり】		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。 観光は、持ち直しつつある。 また、雇用は、持ち直しつつある。

	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある	
観光	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	
雇用	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
公共事業	前年を上回る	前年を下回る	
住宅着工	前年を下回る	前年を下回る	
先行き	先行きについては、ウイズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。		